

日本学術会議会長談話*

柏原正樹先生の 2025 年アーベル賞受賞を祝して

この度、柏原正樹京都大学高等研究院特定教授が、2025 年アーベル賞を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。柏原先生は、第 19 期から第 24 期までの長年にわたって日本学術会議の会員・連携会員としてご活躍くださっており、このたびの受賞を、日本学術会議会長として大変誇りに思います。

柏原先生は、代数解析及び表現論における新しい手法及び基礎理論を創出されました。代数解析は、線形偏微分方程式系を微分作用素環 D 上の加群 (D 加群) とみなして解析する分野ですが、柏原先生は若くして D 加群の基礎理論を構築し、線形偏微分方程式系の解の存在と一意性や、解の正則性に関する古典的な問題を解決されました。さらに、ヒルベルトの第 21 問題として懸案であったリーマン・ヒルベルト対応を最も一般化された形で解決されました。また、この定理の応用として、表現論における重要な問題であったカジュダナーリュスティッヒ予想を解決されました。この予想の解決以来、 D 加群の理論は現代数学における解析・幾何・代数をつなぐ新しい架け橋となりました。その後も、層の超局所解析や、量子群の結晶基底など、現代数学の多岐にわたる分野において基礎となる理論を構築されました。

柏原先生は、ご自身が築かれた理論を基にして、国内外の研究者と共同研究を展開し、重要な成果を数多くあげられています。50 年以上にわたる研究生活において、真に先見性をもつ独創的なアイデアを提供し続けられ、数学及び関連する学問分野に多くの影響を与えています。

柏原先生には、今後も引き続き研究を続けて業績を積み重ねていただくとともに、後進の育成や学術界・社会に対する発信にも力を発揮していただきたいと思います。

今回の受賞は、我が国の科学研究の高い水準を世界に示しました。柏原先生は、受賞の際「50 年以上取り組んできたことであり大変光栄です」と仰っていました。我が国が引き続きこのような独創的、先駆的研究成果をあげていくためには、基礎研究の重要性を再確認するとともに、若手研究者の育成に力を注ぎ、多様な研究の芽を育むことが重要です。日本の科学技術の未来を支える若い世代への息の長い支援をすることは喫緊の課題です。日本学術会議としても、我が国の科学者を代表する機関として、引き続き、多様な研究の意義が広く理解され、社会に浸透するよう取り組むとともに、学術のさらなる発展のために力を尽くしてまいります。

2025 年 3 月 31 日

日本学術会議会長 光石 衛

* <https://www.sci.go.jp/ja/head/pdf/20250331.pdf>

日本学術会議のホームページ (<https://www.sci.go.jp/index.html>) より転載。
詳しい業績紹介は『数学』に掲載される予定です。